

里山を利用したきのこ通年発生技術

山形県森林研究研修センター

研究のねらい

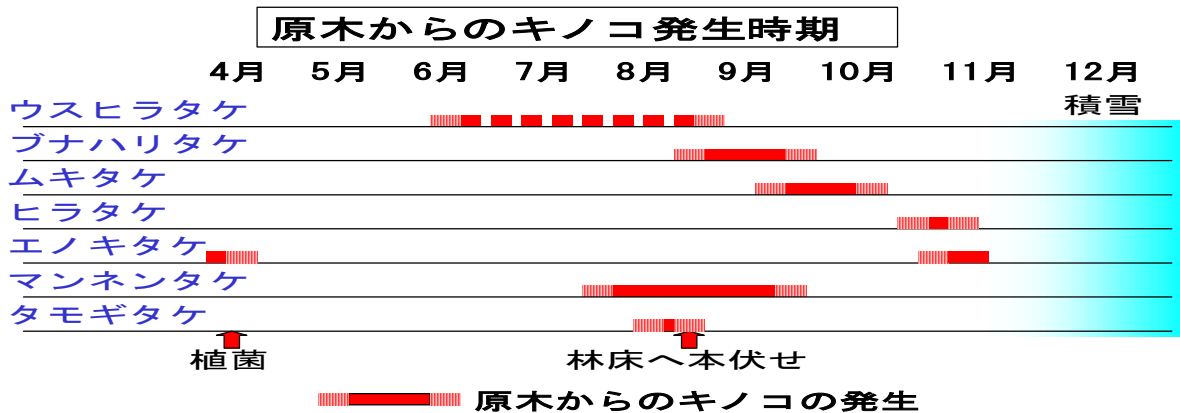
里山を利用し、多品目の「きのこ」との組合せを体系化することで、1年を通した「きのこ」の発生技術を開発した。

研究の成果

- ① 山形県中央部に位置する朝日町の里山広葉樹林（標高 200m）の林床において、きのこの原木栽培を行い、品目別の発生時期を調査した。
- ② 購入した長さ 1mのミズナラ原木に、7品目の市販菌駒を植菌した。4月から約4ヶ月間、当センター内で仮伏せした後、栽培地の里山林床に本伏せした。本伏せの方法は、全て地伏せとし、翌年からの発生のピーク時期を中心に発生状況を調査した。
- ③ 年間の発生状況は、ウスヒラタケが断続的ではあるが、長期間良好に発生した。エノキタケとタモギタケは発生がまばらであるが、ブナハリタケ等は比較的良好に発生した。これらの品目の市販菌株を組み合わせ、林床できのこの栽培を行うと、同一里山林内でも、原木栽培によるきのこ通年発生が可能であることがわかった。



発生中のブナハリタケ(左)とマンネンタケ(右)



問い合わせ先 : 森林資源部 TEL0237-84-4301 e-mail yshinrinse@pref.yamagata.jp